

【暗証聖句】「今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き」ヘブライ人への手紙 8:1

【今週のポイント】

【日・私達の王なるイエス】

ヘブル1章5節から14節までを見ると、3つに分けて重要なことが語られています。一つ目は、5節において、父なる神様がイエス様に対して、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」(5節)と言われたこと。つまり、イエス様は神の御子であり、天の王子であるということです。2つ目に6節において、「神の天使たちは皆、彼を礼拝せよ」と言われ、イエス様が礼拝すべき方であることが示され、8節で「神よ、あなたの玉座は永遠に続き」と、永遠に宇宙の統治者であることが宣言されました。さらに3つ目に、13節において、「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座っていないさい」と言われ、神様の右の座につかせられました。これらのことを示すことは、ヘブライ人への手紙が書かれた大きな目的の一つとなっています。

もちろん、新約聖書の中心テーマの一つである、イエス様がダビデの子孫から生まれ、私達の罪の身代わりとなって十字架にかかり、3日目に復活され罪に勝利されたということをヘブライ人への手紙も支持しています。その上で、さらにイエス様の本来のお姿であり、また現在のお姿を示そうとしているのです。

【月・私達の仲保者なるイエス】

主はモーセに、出エジプト4:22において、『イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。』とファラオに言うがよいと言われ、申命記12:10では、「ヨルダン川を渡り、あなたたちの神、主が受け継がせられる土地に住み、周囲の敵から守られ、安らかに住むようになる」と約束されました。イスラエルの民は神の子・神の長子であり、それゆえ安息の地に住むことが約束されていました。やがて、この約束はダビデの子孫である王へと移されていきます。サムエル記下7:12~14では、主がダビデに、「あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする。この者がわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえに堅く据える。わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」と語られています。こうして、ダビデの子孫である王は、神様の御前にイスラエルを代表する者となります。また詩篇132:11~14では、「あなたのもうけた子らの中から王座を継ぐ者を定める。あなたの子らがわたしの契約とわたしが教える定めを守るなら、彼らの子らも、永遠にあなたの王座につく者となる。」主はシオンを選び、そこに住むことを定められました。「これは永遠にわたしの憩いの地。ここに住むことをわたしは定める。」と書かれてあります。シオン(エルサレム)を中心として、イスラエルの王と民たちが神様の定めを守るなら、神様の祝福の約束は保証されるのでした。こうして神様がイスラエルと結ばれた約束が続いていくはずでしたが、王も民たちも神様の戒めから離れて行く歴史の繰り返しでした。しかし、やがて、「ダビデのひこばえ」として、ダビデの子孫の中から新たな王が誕生します。それがイエス・キリストでした。イエス様がイスラエルのみならず、全人類の王として来られ、霊的イスラエルの代表となって、神様の御前に立ってくださるのです。

【火・私達の代表戦士なるイエス】

王がまだ建てられる前に、民は主に、「我々にはどうしても王が必要なのです。我々もまた、他のすべての国民と同じようになり、王が裁きを行い、王が陣頭に立って進み、我々の戦いを戦うのです」(サムエル上8:19, 20)と主張しました。しかし、真の王はイエス・キリストです。キリストが陣頭に立って進み、私達の戦いを戦って下さるのです。ヘブル2:14, 15に、「ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なされるためでした」と書かれてあります。私達の本当の敵はサタンです。サタンが持っている最大の力は死です。しかし、キリストはご自分が十字架で死なれることによって、そのサタンがもたらす死を滅ぼし、死の恐怖に怯えて生きることのないよう

にしてくださいました。イザヤ 42:13 で、「主は、勇士のように出で立ち、戦士のように熱情を奮い起こし、叫びをあげ、ときの声をあげ、敵を圧倒される」と、主は私達のために戦士のように戦って下さる方であると描写されています。

#### 【水・私達の大祭司なるイエス】

ヘブライ 5 章から 7 章にかけて、イエス様が大祭司としての働きをされていることが書かれてあります。ヘブライ 5:5 に、「同じようにキリストも、大祭司となる栄誉を御自分で得たのではなく、「あなたはわたしの子、わたしは今日、あなたを産んだ」と言われた方が、それをお与えになったのです」と、大祭司として任命されたのは父なる神様であると書かれてあります。そもそも祭司というのは、直接神様に会うことのできない人々のために、犠牲の動物をささげたり、人々に神様の律法を教えたりなど、神の仲保者としての働きをする人のことを言います。その祭司たちの中から 1 年に 1 度、大祭司が選ばれ、民全体の罪を取り除くための重要な働きが委ねられました。

イエス様は私達のために大祭司としての働きをしておられるわけですが、どこでその働きをしておられるのかといえば、天においてであります。復活されたイエス様は、天に戻り、大祭司として私達のために執り成しの働きをしておられるのです。私達はいまそれを見ることはできませんが、ヘブライ人への手紙を読むことで、そのことを知ることができるようになります。

それと共に、私達も祭司の働きが委ねられていると聖書が教えています。第一ペテロ 2:9 に、「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司」と書かれてあります。これは私達が神様に近づくことがゆるされており、人々にイエス様を伝える働きが託されていることを意味しています。

#### 【木・更にまさった契約の仲保者なるイエス】

ヘブライ 8:6 で、「しかし、今、わたしたちの大祭司は、それより（人間の祭司）はるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです」と書かれています。地上における祭司の働きはすべて天にあるものの写しに過ぎませんでした。天において、本物の大祭司であられるイエス様が、地上の祭司がしていた働きよりもさらに勝った働きを開始されたのです。それは、8 章 10~12 節にあるように、『わたしの律法を彼らの思いに置き、彼らの心にそれを書きつけよう。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。彼らはそれぞれ自分の同胞に、それぞれ自分の兄弟に、「主を知れ」と言って教える必要はなくなる。小さな者から大きな者に至るまで彼らはすべて、わたしを知るようになり、わたしは、彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い出しはしないからである。』ということ。そして、それゆえに『見よ、わたしがイスラエルの家、またユダの家と、新しい契約を結ぶ時が来る』と、主は言われました。（ヘブル 8:8）。

私達が生きているこの時代は、まさに新しい契約の時代であり、イエス様は天で大祭司としての働きをしておられます。その働きが終わると、地上に戻って来られます。そのときは、もうまもなくです。